

歯学部

口腔保健福祉学教育プログラム

取得できる学位 ★学士（口腔保健福祉学）

■ プログラムの概要

本プログラムは、口腔保健学と福祉学の領域融合教育プログラムで、「食べる」ことや口腔機能の維持向上という視点から学びを深めることができる。また、卒業時に歯科衛生士と社会福祉士の国家試験受験資格をあわせて取得できる。

■ 人材育成目標

変化の激しい現代社会のなかで、新たな諸課題に関係者と適切に連携しながら問題解決を図っていく能力を備え、口腔保健・歯科医療・福祉を総合的に思考・展開できる能力を有する人材を育成する。

■ プログラムの到達目標（期待される学修成果）

| 1 | 知識・理解

- a) 口腔の構造と機能を理解する。
- b) 高齢者や障害者の身体的、心理的特徴を理解する。
- c) 口腔の健康増進とオーラルヘルスケアの重要性を理解する。
- d) 歯科疾患の診査、処置、予防の原理・原則を理解する。
- e) 歯科医療の実践が基盤としている法医学、倫理的原則を理解する。
- f) 社会福祉と社会保障の全体像を理解する。
- g) 児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉の理念と意義を理解する。
- h) 医療提供体制と医療保険制度を理解する。

| 2 | 当該分野固有の能力

- a) 歯科医療において適切な感染予防対策を行う。
- b) 歯科医療において安全の確保を行う。
- c) 個人、集団、社会に対して有効な歯科保健指導を行う。
- d) インフォームドコンセントの原則を遵守する。
- e) 科学的根拠にもとづいた歯科予防処置を実践し、その成績を評価する。
- f) 正確な患者・利用者の記録を作成し、適切に保管する。
- g) 適切な歯科診療補助を行う。
- h) 社会福祉援助技術にもとづいた適切な活動を行う。

| 3 | 汎用的能力

- a) 自ら課題を見つけ、必要な情報を収集、分析、統合し、問題を解決する。
- b) 適切に自己評価する。
- c) 統計スキルを用いてデータを処理する。
- d) 時間管理と優先順位づけを行い、定められた期限内で活動する。
- e) 日本語や英語により口頭で、また文書を用いて有効なコミュニケーションを行う。
- f) チームのメンバーと協調し、リーダーシップを発揮する。
- g) 必要に応じて専門家の支援やアドバイスを求める。
- h) ICTを活用する。

| 4 | 態度・姿勢

- a) 倫理的、道徳的、科学的な意思決定を行い、結果に対して責任を負う。
- b) さまざまな文化や価値を受容し、個性を尊重する。
- c) すべての患者・利用者に対して親身に対応し、相手の権利を尊重する。
- d) 個人情報・医療情報の秘密保持に万全を期す。
- e) 自分の利益のまえに、患者・利用者ならびに公共の利益を優先する。

■ プログラムの履修要件

- ・口腔保健・歯科医療・福祉に対する高い目的意識
- ・患者・利用者の痛みや苦しみを理解できる人間性
- ・主体的に課題に取り組む態度と強い学習意欲
- ・地域貢献・国際貢献への熱意

■ カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

歯学部では、学士課程教育を歯科医療従事者としての生涯学習の最初の段階と位置づけ、問題解決能力の育成を重視し、その後続く大学院や実社会での学習のなかで専門性を主体的に向上させる人材を養成するという基本的認識を共有しており、歯学教育という文脈のなかで問題解決能力を育成するために、アクティブラーニングを積極的に導入している。

口腔保健福祉学教育プログラムは、基本的な学習スキルと能動的な学習態度の育成が図られる初年次教育と、2～4年次の専門教育から構成される。

初年次教育では、教えられる受け身の学習から自ら学ぶ態度への転換を図り、そのために必要な自己学習能力を身につけさせる。また、全学共通科目を通して、多様なものの見方にふれさせ、さまざまな文化や価値を受容し、個性を尊重する態度を涵養する。

専門教育では、歯科衛生士と社会福祉士に求められる知識・技能・態度をバランスよく修得させる。プログラムは、問題基盤型学習（PBL）をもとに、分野・科目の枠にとらわれず編成されており、知識や技能を統合する工夫がなされている。また同時に、問題解決能力や対人関係能力など高次の統合的な能力の育成にも努めている。